

水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
はっち 六弦 しーしー 風子	樂 佳月	きいち	凡士	佳月 はっち くるみ	土璃	音思 風舍 六弦 しーしー くるみ	ひろし	ヨネヤマ きいち	つぶ金	福寿草 コーギー豆を挽く夫よ	冬薔薇 一途といふも侘しくて	煙立つアロマキャンドル除夜の鐘	鉄橋やSし迎えて冬の空		
除夜の鐘わたしが私許すとき	冬三日月嘘の芯まで見透かせり	悩みなどないふりをして初化粧	老人談笑人日のゴミ捨て場	年新た野猫とへぼ句と古き妻	薦紅葉すつぽり小屋を包みけり	悩みなどないふりをして初化粧	熊さんにハつあんになるおでん酒	粗挽きの豆の香りや冬日和	さもありなん。	季語が良いですね。ひらひら舞う雪の結晶の美しさがよく分かる、後悔しなければ良いが。	季語と一途が響きます。	森佳月	森佳月	つぶ金	
季語選びが秀逸。1年間のリセツトです。年の終りに自己肯定。心の中も消し去るということか。	季語選びが秀逸。1年間のリセツトです。年の終りに自己肯定。心の中も消し去るということか。	嘘の芯という表現がとても気に入りました。三日月に芯という表現が合っています。	皆悩みのひとつや二つあるもの初化粧で作者の快活さが分かる、ホツとする良い句。	こんなことはよくありますね。おでんと酒で楽しく言い合つてゐる姿が見えます。不穏にならないうちに話を変えて美味しいお酒で終わる姿がいですね！	さあ今年もしっかりお喋りするぞ。	もこもこの小屋の景がよく見える。	悩みなどないふりをして初化粧	檜鼻ことは	宇田靖之	遠藤信	展平	遠藤信	新井のり子	春駒	遠藤信

水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月														
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
凡士癒香	ヨネヤマ		音思	ヨネヤマ 幹子	かれん		山菜		ひろ志	絵夢	ことは	樂朝子	つぶ金	
頭から食ふてみんさい柳葉魚だよ	足裏でじやんけんしてる日向ぼこ	米粒ほどのジェット空ゆく初山河	初孫を影で見守る寒稽古	初春やサラブレッドの駆ける音	宍道湖に鋤簾うごめく冬夕焼	みどり児のふにやりと笑まふお元旦	宍道湖のシジミ漁が夕焼けの中にシルエットとして浮かびます。 音が耳に残っています。	ゆつたりとぬる湯につかる雪もよひ	大枯野井月の影彷彿と	「雪国」の温もつてゐる炬燵かな	子ら去りてまた二人なる毎日かな	踏切の先ゆつたりと初明り	お出かけは孫のお下がりボアコート	しーしー
北海道と広島（岡山）の対比か？方言が絶妙。	足裏じやんけんが良いですね。	初孫は可愛くて気にかかるもの。	初春やサラブレッドの駆ける音	宍道湖に鋤簾うごめく冬夕焼	みどり児のふにやりと笑まふお元旦	「しわまた」ですか。意味深淵！	宍道湖のシジミ漁が夕焼けの中にシルエットとして浮かびます。 音が耳に残っています。	河原さんぽ	雪待月田猫	河野凡士	高松和永	石関六弦	踏切の先ゆつたりと初明り	踏切の先ゆつたりと初明り
秋谷風舎	ありぎりす	渋谷きいち	新暦文	高田はつち	岡崎梗舟	くるみ	高原ひろし	河原さんぽ	雪待月田猫	河野凡士	高松和永	石関六弦	しーしー	踏切の先ゆつたりと初明り



水明インターネット句会（選句・選評） 令和八年一月

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	水明インターネット句会（選句・選評）	令和八年一月
かれん きいち 彩香 しーしー 幹子 俊之	和永			しんい 土瑠 ねこ たか子 田猫		展平			たくみ 彩香 和永 ひろ志							
降る雪の傘に重たき別れかな	轍の母の手いまは柔らかし	苦労して育ててくれたのですね。	門松の明るきことよ新所帶	聖なる夜街中拡がる鈴の音よ	火を灯す千の棚田や冬の暮	福引や目指して走る最後尾	妻として女としての初鏡	店頭に並ぶ古本冬日和	空風や改名しげき喫茶店	野の石に還りし仏冬すみれ	幼子が恐れる音で吹雪まく	夜はふけて一人仕舞い湯虎落笛	初鏡まばゆき光（かげ）に年を消す	息白む手習ひさらひ墨つづれ	両脇の子痺れる腕冬深し	
傘に積もつた雪の重さに別れの辛さを感じた。性麗な詩情豊かな句で、傘に別れが積もつて重い、作者の別れ感も綺麗な表現たがいが受取る。傘に積もつた雪の重さに別れの辛さを感じた。性麗な詩情豊かな句で、傘に別れが積もつて重い、作者の別れ感も綺麗な表現たがいが受取る。					傘が面白い。美しい光景が鮮やかに広がりました。雄大で幻想的。美しい句。	「火を灯す」という表現が面白アツプの「棚田のあかり」でしようか。「火を灯す」という表現が面白アツプの「棚田のあかり」でしようか。	季語が生きています。			効いています。すべては、自然にかれが効いています。季語の「冬すみれ」が効いています。すべては、自然にかれが効いています。季語の「冬すみれ」が効いています。						
遠藤 信	森 佳月	檜鼻ことは	宇田靖之	米山 カロー リング	丸井ねこ	つぶ金	立野音思	石川順一	小林土瑠	佐藤幹子	持永 喜夫	絵夢	螢のまま			

## 水明インターネット句会（選句・選評）令和八年一月

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	
		展平	しんい 瞳人			しんい	ひろし	土璃			樂 順一	くるみ			
山陰の積雪に笑む我ら子孫	初雪の畝間に残る大山家	きりたんぽ秋田美人の訛りかな	聞いてみたいですね。	俊敏な女性総理や春近し	切れ味鋭い女宰相。	初の女性総理に期待は大と季語の力。前任2人の情けない男、こちら	寒肥をひと粒づつね植木鉢	新春やシユトラウス聴き静まりぬ	自販機に御朱印ならぶ今朝の春	降る雪の傘に重たき別れかな	考古館の雰囲気をよくとらえている。	三姉妹笑い溢れて除夜は更く	トレモロに俳人嗤ふ寒鴉	北海道は四角のままに去年今年	この句座のこの顔ぶれや年新た （類句があるかもしませんが）作者の想いが伝わる新年らしい句。 た。
高原ひろし	河原さんぽ	河野凡士	雪待月田猫	しーしー	高松和永	石関六弦	遠藤信	新井のり子	春駒	瞳人	森下山菜	朝子	展平	衛	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	水明インターネット句会（選句・選評）令和八年一月
彩香俊之		六弦	和永			凡士	朝子佳月		喜夫人瞳順一	山菜		癒香風子	たくみたか子	かれん幹子ひろ志	
梅の枝のもつれし先の空は青	もつれし先が良い。青！とハツキリ言い切つたのが気持ちよい	定まらぬ句の推敲や明易し	元日や人生ゲームの駒ぽつり	ぱつりが効いています。	冬夕焼父母のおはする西の空	二人の笑顔が浮かんでくるのですね。	冬の霧山湖覆い霧の街	匠の目鷹の目の先有害鳥	卒寿にて喘ぐ石段初詣	冬の蝶すべてを知つて草に落つ	肉まんをはふはふ食ふや冬茜	天上の幕末三舟星汎ゆる	鼻風邪に少し艶めく電話口	初詣 帰りに寄席へちよいと寄る	思いました。海の光に緋寒桜が輝くようです。春が近づいてくる喜びを感じる句と毎年初席に行つて獅子舞を楽しんでいます。私には寄席が主で初詣が従に詠める。愉快な句であります。
霜里	衛	白井俊之	岩清水彩香	和田イチ子	平野 楽	岡本たか子	渋谷きいち	秋谷風舎	ありぎりす	岡崎梗舟	新暦文	高田はつち	くるみ	しんい	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	水明インターネット句会（選句・選評）令和八年一月
	順一	絵夢				音思 風舎	ねこ	たか子	暦文 梗舟		たくみ 山菜		展平 田猫	暦文 癒香	湯気を吐くの表現が上手い。情景がありありと観てとれる。 人生と同じですね。ゲームのスリルと人生を感じさせる句。
人去れば椅子のおしゃべり暖炉の火 雑炊を皆に取り分け宴おわる 海に月漂ひてをり山眠る	冬の海と山の静謐な情景が月を通して上手く描かれている。	こする手や猫耳揃ひ初詣 初句会あいさつ交わす華やぎて 初鴉凍つる坂道初すべり 熱燐やいつもほつけの馴染客 珈琲と赤子の寝息冬茜	音思 風舎 わつてくる。 熱燐とほつけの旨い、素敵な女将の居る小料理屋か。通う気持ちが伝 「冬茜」がほつとした情景をより引き立てている。	98 97 96 95 94 93 92 91											
小林土璃	寒立馬	立野音思	絵夢	佐藤幹子	持永喜夫	染谷風子	蛍のまま	癒香	かれん	総太郎	青木鶴城	神谷たくみ	龍野ひろし	大越マーガ レット	

虎落笛机を占めるスポーツ紙

石川順一